●デフリンピックレガシー ●手話施策推進法 ●障害者権利条約採択 20 周年 いま 富山から 新しい未来へ！

第74回全国ろうあ者大会 in とやま

速報 第18号
2026 年 6月 7日発行

開催地：富山県富山市・高岡市　　2026 年 6月4日(木)～7日(日)
主　催：一般財団法人全日本ろうあ連盟　　主　管：社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

【連絡先】社会福祉法人富山県聴覚障害者協会 第 74 回全国ろうあ者大会 in とやま実行委員会事務局 〒930-0806 富山県富山市木場町 2-21
FAX ； 076-441-7305　　TEL ； 076-441-7331　　E-mail ； 74toyamazenkokutaikai.2026@gmail.com

富山県農協会館
3 研究分科会 手話言語通訳

手話施策推進法とこれからの情報保障の在り方

手話言語通訳の明るい未来を期待できる分科会でした。

参加者が 450 人を超え、非常に熱気のある会場でした。テーマが通訳という事もあり、きこえる人の参加も多く、ろう者ときこえる人が半々という印象でした。

「手話に関する施策の推進に関する法律」が前年に施行された事、また、「東京オリンピックでのろう通訳」、「東京 2025 デフリンピックでの、国際手話通訳者と手話通訳者の協働通訳といった、手話言語通訳の話題が多かった事が今回の熱気の要因かと考えます。

手話施策推進法が施行されましたが、今後、社会的に影響を与えるために制度・施策を整えていく事がこれからの課題となります。そのために、今日のパネリストが示す通り、ろうあ連盟、全通研が連携し、国；厚生労働省に働きかけていく事が必要となっています。

きこえる者として、手話通訳者の成長や手話言語の理解が広がる事で、ろう者の社会生活、日常生活の向上につながるように、今後の施策の実施や、また自分が個人として何ができるのかを考えていこうという分科会でした。

ボルファートとやま

4 研究分科会 文化

聞こえない人が拓く、エンターテインメントの新時代

ろう者の芸術文化の新しい未来がそこに・・・

音声言語が中心になっていることや字幕作品の不足、視覚的アクセス環境が不十分であることなど、現在の課題を指摘する中で、手話文化を育てていくことの大切さを訴えられました。そのために、手話文化に触れる機会を増やすことや４つの法律を活かし表現する場を確保すること、人材の育成が必要と説明。手話文化を通して誰もが文化を享受できる社会を目指したい、と話されました。

その後は、俳優の江副悟史氏との対談。ドラマ「サイレント」「デフヴォイス」舞台「真夏の夜の夢」などを手がけた体験を通して、その苦労話や本音、不満などをユーモア交えて、豊かな手話表現でお話しくださいました。「芸術は答えのない世界」であり、より多くの人に喜んでもらえる作品を作っていきたい、そのために人材を多く育てたいと熱く語られました。魅力ある表現を磨くために、学びあって成長していきたいと今後についても話されました。また、「デフリンピック 2025」で出演・手話言語表現した国歌を会場のみんなの前で表現してくださいました。その優雅で美しい手話表現に、会場からは大きな拍手が送られました。

最後に、江副悟史氏（俳優）、石橋大吾氏（全日本ろうあ連盟理事長）、今井ミカ氏（映画監督）、藤平淳一氏（石川県聴覚障害者センター施設長）の４人によるパネルディスカッション。４人の現在の活動を映像を通して紹介。その後の話し合いの中で、ろうあ者と聞こえる人が対等に楽しめるエンターテイメントについて、課題を出し合い、解決方法を探り、議論しました。ぜひみなさんにもいろんな意見を出していただき、話し合うことが大切だと訴えられました。手話という言語が当たり前になる社会を願います。